

平成23年度沖縄群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	21.3	24.0	18.9	180.7	134.1

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

カンシャコバナナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.7頭(前年0.7頭、平年0.9頭)と平年並であった。
- b 2～3月の気温に基づき、3月23日時点での防除適期は、沖縄本島及び周辺諸島で平年より1日早く、南・北大東島で平年より2日早いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月23日現在)

地域別	防除適期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月17日～5月1日	4月24日	4月25日	1日早い
南・北大東島	4月11日～4月25日	4月18日	4月20日	2日早い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出

2 かんきつ(シークワーサー)

そうか病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は9.0%(前月10.0%)で、発病度は1.3(前月1.8)であった。
- b 伝染源となる罹病葉をできるだけ除去し、雨滴や露が早く乾くように園内の通風採光を良くする。
- c 窒素肥料の過剰施用や強剪定は軟弱な枝葉の発生を助長し被害を大きくするので注意する。

ミカンキジラミの防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、成虫密度は0.6頭(前年2.8頭)で、幼虫密度は5.7頭(前年2.6頭)であった。
- b 好適寄主のひとつであるゲッキツでの成虫密度は2.0頭(前年4.6頭)で、幼虫密度は23.9頭(前年35.2頭)であった。
- c 本種はカンキツグリーニング病の媒介虫であり、春は媒介時期であることから薬剤による防除を徹底する。
- d カンキツグリーニング病の拡大を防ぐため、本種の寄生したかんきつやゲッキツの移動を自粛する。

3 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- b 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 結実期以降は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

灰色かび病・うどんこ病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、一部園地において本病の発生が確認された。
- b 罹病した部位はビニール袋に入れて、速やかに施設外に持ち出し処分する。
- c 通風採光をよくする。
- d 早期発見・早期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.1頭未満)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.1頭、平年0.1頭未満)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

4 きゅうり(施設)

べと病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は12.5%であった。また、一部の施設で発生が多くみられた。
- b 湿度が高く気温が20 前後の時によく発生することから、換気を十分に行う。
- c 被害葉は施設内から持ち出し処分する。
- d 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。

5 かぼちゃ

うどんこ病の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、発病葉率は72.5%で、ほとんどの圃場で多発の傾向にあった。
- b 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- c 防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。